



# 横浜訓盲学院 だより

第32号 (2014年11月号)

2014年10月29日発行

〒231-0847 横浜市中区竹之丸181番地 URL : <http://kunmou.jp/>

事務部

普通部

理療科

TEL:045-641-2626 FAX:045-641-2627  
E-mail : [jimu@kunmou.jp](mailto:jimu@kunmou.jp)

TEL/FAX:045-662-1710  
E-mail : [futsuu@kunmou.jp](mailto:futsuu@kunmou.jp)

TEL/FAX:045-662-1833  
E-mail : [riryuu@kunmou.jp](mailto:riryuu@kunmou.jp)

## 臨機応変 伸縮自在 開発進展之秘義



学院長 中澤 恵江

先日、資料室の大掃除がありました。資料のほとんどは古い写真とネガで、それらは学院を数十年にわたって牽引されてきた故今村幾太先生が撮影されたものでした。木造の校舎、オルガン、石炭ストーブ、生徒や教員の服装や髪形、その時代の学院を知らない私にも懐かしい思いを抱かせるものでした。

ところが、ノスタルジックに過去のイメージに浸っていると、真っ白な紙に書かれた鮮烈なメッセージが飛び込んできました。それは、今村幾太先生直筆の色紙でした。そこには確信に満ちた筆遣いで、表題の文字が書かれていました。その書には、今ここにも届くような力強いエネルギーがありました。

視覚障がいや有する子ども達、重複障がいや有する子ども達の学びは、教員が準備したプログラムの遂行だけでは十分にもたらされないものです。子どもの好奇心や疑問の芽生えに気付いたら、臨機応変に準備したことを縮小し、子どもの輝く表情に導かれて黙々と子どもの探索に寄り添う勇気も教員には求められます。あるいは、言葉だけは知っていても体験が極めて少ない盲の子ども達の世界を広げるために、教員があらゆる場面で体験のチャンスを見落とさず、その機会を楽しく提供することが子どもの学びの質と量に大きく影響します。

これが秘義たる所以は、それは誰かが教員に教えられるものではなく、一人一人の教員が自ら悩みつつ心と頭と体を使って、子どもと共に学んで気付いていかなければならないからだと思います。



「わたしは門である。」

ヨハネによる福音書10章9節

《11月の聖句》キリストが門となって、通る者(信じる者)を祝福に導かれます。



### 小学部 1泊2日で箱根に修学旅行

9月30日から1泊2日で、小学部は修学旅行に出かけました。目的地は箱根・芦ノ湖方面です。今回の旅行では、登山鉄道、ケーブルカー、ロープウェイ、海賊船とさまざまな乗り物に乗る体験ができました。乗り物によって走行時の音が違うことや、乗り物の仕組みが違うことを知ることができました。

大涌谷では、硫化水素のにおいに「あれ、なんかくさくない?」と気が付いたり、黒たまごを大きな口でパクリと食べたりもしました。また、そば打ちにも挑戦しました。「こねて、こねて」と歌に合わせて、そば粉を混ぜたりまとめたり。1kgもする包丁を持ち、緊張しながら「あげて、合わせて、切って」と繰り返し唱えながら生地を切りました。がんばって自分たちで作ったそばは、最高のおいしさでした。

初めての修学旅行で緊張することもありましたが、仲良し2人組の修学旅行は、とても楽しい思い出になりました。



### 高等部 夏期社会体験学習

高等部専攻科生活科では、これまで利用したことのある場所を散策することを通して、周りの身近な地域をより詳しく知るとともに、自分たちが住んでいる地域に愛着をもつことを目標に地域に密着した活動を行っています。



7月下旬に実施した夏期社会体験学習では、「横浜駅探検隊」「関内・桜木町探検隊」「電車の旅～東京駅」の3つの班に分かれて実施しました。横浜駅ではそごうやジョイナス、地下街を散策し、いろいろなショップに寄り、音楽の試聴、マッサージチェアなどを楽しみました。桜木町ではクイーンズスクエアの中で神奈川県警音楽隊の生演奏を聴いたり、白パイの試乗もしました。また、イセザキモールに行き、「ゆず」が路上ライブしていた場所に寄ったり、地下鉄のホームドアを調べたりしました。電車の旅では京浜東北線に乗り東京駅に向かう間、いろいろな駅の発車音メロディを楽しみ、復路は東海道線に乗車し、その速さを体感しました。東京駅では、エキナカやKITTEを楽しみながら散策し、構内の広さや人の多さを感じてきました。



そして、どの班もランチタイムには美味しい料理をみんなで楽しみました。

### 高等部 作業所見学・実習

夏休みを利用し、普通科2年生1名が作業所見学、3年生4名が作業所実習を行いました。

今回訪れた作業所は、毎年PTAバザーにも出店していただき、卒業生も仕事をしている「デイセンターつぼみ」。同じく、本校の卒業生も仕事をしている「本牧活動ホーム」。多くの視覚障害者の方々が仕事をしている「横浜光センター」。初めて見学をさせていただいた「港南中央地域活動ホーム」でした。

生徒は普段の授業時間よりも長い時間の作業に休むことなく取り組んだり、初対面の職員さんや利用者さんにしっかりと挨拶をしてコミュニケーションを取りながら活動を行いました。

作業の時間には、学院の授業でも勉強しているボールペン組み立てや、初めて取り組むカセットテープの録音作業や録音されたCDの不具合の確認作業、缶つぶし、ステンシル製品製

作などを一生懸命取り組みました。

高等部普通科は16～18歳の生徒たちが在籍し、これから自分たちが巣立っていく社会を意識する年代ですが、生徒一人一人が今回の作業所見学・実習を通して一回りも二回りも成長した姿を見ることができました。



## 視覚障害



## 全国盲学校野球大会

8月21日(木)～22日(金)に第29回全国盲学校野球大会(グランドソフトボール)が平塚市内で開催されました。前回の大会では、荒天のため決勝トーナメントを行えず、2年ぶりの開催となった今年の大会は、前日の公式練習も含め、3日間ともすばらしい天候に恵まれました。猛暑の中、選手たちの疲労も蓄積したと思いますが、皆、全力でプレーしていました。

決勝トーナメントは1試合1時間40分で行われました。3ブロックにわかれて行われた予選リーグ戦で勝ち残った、神奈川県選抜、福岡県立福岡高等視覚特別支援学校、東海選抜の3チームと、勝ち点で選出された筑波大学付属視覚特別支援学校の計4チームで争われました。結果は、相手のミスを上手く得点に結びつけた筑波大学付属視覚特別支援学校が優勝しました。地元である神奈川県選抜は健闘しましたが、全国の壁は厚く残念ながら4位という結果になりました。

この場をお借りして、協賛・応援して頂いた皆様に御礼申し上げます。



— 横浜めぐりと横浜訓盲学院訪問 —

目白教会牧師(横浜訓盲学院理事) 古旗 誠

昨年に続いて、東京の目白教会と志村栄光教会の会員の方々をお連れして、横浜めぐりをした後、横浜訓盲学院(以下、学院という)を訪問しました。横浜のキリスト教の歴史と学院を知っていただくことを目的として行いました。

5月29日(木)朝、9時半に元町中華街駅に集合しました。そこから、山手の外人墓地を訪ねました。山手の外人墓地のはじまりは、1854年ペリーの黒船の水兵が死亡し、埋葬した時まで遡ります。この墓地には日本の歴史に関わった方々が多く埋葬されています。その中には、日本の教育に関して功績のあった外国人宣教師たちの墓が幾つもあります。ジェームズ・バラは、日本最初のプロテスタント教会(横浜公会)の設立に関わり、植村正久や本田庸一をはじめ多くの日本人を育てた宣教師ですが、彼の夫人であるマーガレットの墓もあります。また、フェリス女学院の創立者キダーと後継者のカイパー、学院と関係の深い青山学院の創立者サムエル・マックレーのヘンリエッタ夫人、横浜共立学園の創立者ピアソンとクロスビー、長老派の宣教師ルーミス、関東学院神学部の創立者であるベンネット他、数々のキリスト教関係者の墓が

あります。また、ここにはプロテスタント教会だけでなく、ローマ・カトリック教会、ハリストス教会、ユダヤ教やフリーメイソン等の墓もあります。異国の地で召され埋葬される悲しみは、どれほど大きなものでしょうか。しかし、この日本のためにすべてを奉げた人たちであり、最も天に近い人たちが眠っている墓地なのです。

その後、港の見える丘公園に行きました。丁度バラが美しい季節でもあり、満開の美しいバラ園を見て回りました。そして、お昼は中華街に行きおいしい中華料理を頂きました。続いて、学院が手配してくれた大型バスに乗って、学院に12時50分に到着し、礼拝を参観しました。毎週木曜日午後1時から、普通部の子ども達と理療科の学生たち、そして、教職員みんなで礼拝をしています。毎回80人ほどが集まって讃美歌を歌い、聖書を読み、牧師の説教を聞きます。月の暗唱聖句の発表をしていただき、みんなで一緒に朗読します。その週に誕生日を迎える人のために、三島徹氏(盲人)が学院の子どもたちや教会学校、幼稚園の子どもたちを思いながら作曲した「生まれる前から神様に守られてきたともだちの誕生日です。おめでとう」を歌って祝福します。学院の礼拝は、日本のどこの教会学校よりも元気で明るくて個性的で楽しい礼拝です。そして、礼拝後に行われる聖書の授業も理療科の学生達に交じり一緒に参観しました。年度のはじめは、いつも、学院の創立者ピンクニー・ドレーパー宣教師三代にわたる物語を話します。

学院の創立の精神は、ハンデを持つ子どもたちが、世の光となって周囲の人たちを照らしていくことです。ドレーパー宣教師は、いつも、希望をもって困難なことに対してチャレンジしていきました。いつも、先駆的なことを心掛け、何事にも感謝と喜びをもって行動していきました。小さな弱い人たちを大切に、希望を与えていく学院のために大きな種蒔きをしてくださいました。この尊い働きを多くの人に理解していただき、お支え頂きますよう、よろしく願いいたします。



助成金贈呈式



9月10日(水)、「みすほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が横浜訓盲学院会議室にて行われ、同財団の上田靖常務理事と真鍋典典教育事業部長が来校され、目録をいただきました。今年度の助成金で、拡大読書機、iPad Air、テーブルを購入することができますことに感謝いたします。

9月11日(木)、「神奈川韓国青年商工会」様主催による社会福祉のためのチャリティーゴルフ大会の席上にて、寄附金の贈呈式が行われ、堀忠蔵理事長が同会の趙吉済会長より寄附金をいただきました。

あたたかいご支援・ご配慮を頂きまして、本当にありがとうございました。



思うツボ 靴

皆さんは普段靴を履くと思いますが、足に意識をしたことはありますか。足は踵の骨などを含めて7個の足根骨(そっこんこつ)と中足骨(ちゅうそくこつ)、そして趾骨(しこつ)という足の指の骨から構成されています。骨同士は靭帯により連結されて縦と横のアーチを作り出します。足の裏が真っ平らになってしまう扁平足(へんぺいそく)や足の横幅が広がってしまう開帳足(かいちょうそく)というのはこの縦や横のアーチが消失してしまっている状態をいいます。

このアーチが消失してしまう一つの原因には靴が合っていないことがあります。さらには合っていない靴が外反母趾の原因となることもあります。靴を選ぶとき、ファッションとして選んでいますか?それとも機能で選んでいますか?軽い靴が疲れず歩きやすいと思っている方も多いと思いますが、歩くという動作は足の振り子運動ともいえるので、実は振り子の部分となる靴は軽いよりも適度に重い方が疲れにくいということもあります。

他にも、足の裏で健康状態が分かるといえます。靴を履いている時間が長い現代人にとって靴の裏が足の裏とも言えるかもしれません。今一度普段はいているご自身の靴を確認してみてください。高いヒールであっても足が前にずれないようにベルトでおさえられているか、踵やつま先が変なすり減り方をしていないかなど。もしかすると、膝の痛みや腰の痛みは靴に原因があるかも知れません。



◎平成26年度後期の主な行事予定◎

- 11月 5日(水) 総合防災訓練
- 7日(金) 理療科遠足
- 15日(土) P T A バザー.....
- 26日(水) 普通部 マラソン大会
- 12月 6日(土) 普通部 第1次入学検定
- 13日(土) 神奈川県盲学校サウンド・テーブルテニス大会
- 19日(金) 理療科生徒会クリスマス会
- 20日(土) クリスマス礼拝・祝会
- 24日(水)~1月7日(水) 冬休み
- 1月 17日(土) 理療科 第1次入学検定
- 24日(土) 学校開放「お餅つき」.....
- 29日(木) 防災訓練
- 2月 6日(金) 普通部保護者参観日
- 21日(土) あん摩マッサージ指圧師国家試験
- 22日(日) はり・きゅう師国家試験
- 3月 6日(金) 防災訓練
- 20日(金) 平成26年度卒業式・修了式



PTAバザーのご案内

今年も恒例となりましたPTAバザーを開催致します。お好み焼き・豚汁・カレー等の模擬店、生花の鉢植え、普通部生徒による手作りお菓子・雑貨などの販売の他、理療科では生徒による

クイックマッサージなどが催されます。ぜひ、お立ち寄りください。

日 時:11月15日(土) 12:00~15:00(雨天決行)

場 所:横浜訓盲学院 前庭・講堂など



学校開放「餅つき大会」

平成27年1月24日(土)に横浜訓盲学院恒例のお餅つき大会が予定されています。地域の方々も含め、例年150名以上が集う大変賑やかな会です。大人がつく大臼と、子供がつく小臼を用意しておりますので、ぜひご参加ください。

今年度も沢山の蒸した餅米を用意し、つきたての餅にあんこやきな粉をまぶしたからみ餅をお楽しみいただけます。また、小さいお子様から大人まで楽しめる、毎年大人気の大福作り体験も予定しております。

日程が近くなりましたら、学院近くの掲示板に詳細のお知らせを掲示致します。今年度も来校者の皆様の笑顔を見るのが楽しみです。皆さまのお越しをお待ちしています!

平成27年度生徒募集

【普通部】 幼児・児童・生徒募集

- 募集定員
  - 幼稚部 (3歳児・4歳児・5歳児) 計6名
  - 小学部 1年生4名
  - 中学部 1年生4名
  - 高等部普通科 1年生4名
  - 高等部専攻科生活科 1年生4名
- 募集期間
  - 《一次》平成26年10月28日~平成26年11月21日
  - 《二次》平成27年1月13日~平成27年2月27日
- 入学検定日
  - 《第1回検定日》平成26年12月6日(土)午前9時~
  - 《第2回検定日》随時。
- お問い合わせ
  - 普通部 (直通) TEL.045-662-1710

【高等部理療科】 生徒募集

- 募集定員
  - 高等部専攻科保健理療科 (3年課程) 1年生4名
  - 高等部専攻科理療科 (3年課程) 1年生8名
- 募集期間
  - 《一次》平成26年10月28日~平成27年1月9日
  - 《二次》平成27年1月19日~平成27年3月6日
- 入学検定日
  - 《一次》平成27年1月17日(土)午前9時~
  - 《二次》随時。出願書類提出後、調整のうえ試験日を定め実施。
- お問い合わせ
  - 理療科 (直通) TEL.045-662-1833

臨床実習のご案内

当学院では授業の一環として、あんま・マッサージ・指圧および、はり灸の臨床(施術)を行っています。是非ご利用下さい。



★あんま・マッサージ・指圧・はり灸...水・木・金曜日

料金 一律 1000円  
時間 前半 9:50~  
(各50分ずつ) 後半 10:50~

◆ご予約はお電話で!  
当日の朝 8:45~9:10  
電話 090-9009-5882  
◆お問い合わせは理療科まで  
電話 045-662-1833

●ご協力をお願い●  
(平成26年度 賛助会員)

私どもの視覚障害教育にご理解いただき、ご支援下さる団体・個人の方々の賛助会員を募らせていただいております。よろしくお願ひ申し上げます。

- 【年会費】 団体会員(1口)10,000円/個人会員(1口)1,000円(口数は問いません)
- 【お支払い方法】 ・郵便振替[加入者名]学校法人横浜訓盲学院(口座番号00200-5-40861)  
・現金
- 【その他】 会費以外に寄附金も有難くお受けいたします。
- 【免税措置】 ・会費は寄付金として扱われ、横浜訓盲学院より領収書が発行されます。  
・当校は特定公益増進法人の認可を受けておりますので、法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で免税会計処理ができます。  
・個人の場合は、2,000円を超える金額に対して免税されます。
- 【お問合せ先】 横浜訓盲学院 事務部 TEL.045-641-2626